



ダイオウマツ

Pinus palustris Mill. マツ科 (Pinaceae)



北米の南東部諸州に原産する常緑の針葉高木で、低湿地にも生育し、樹脂を採取するために栽培されています。日本で一般的なアカマツやクロマツは葉が2本、ゴヨウマツは5本ですが、ダイオウマツは3本(三葉松)が束になって生じます。特に、幼木は美しく、切り枝が花材として市販されています。





ダイダイ

Citrus aurantium L. ミカン科 (Rutaceae)



(局方)*Citrus aurantium* L. var. *daidai* Makino

生薬名: キジツ(枳実)・トウヒ(橙皮) 薬用部位: 未熟果実・果皮

インド原産の常緑小高木です。生薬「キジツ」は本種の未熟果実をそのまま又は半分に横切したもので、ナリンギン(フラボノイド)などの成分を含み、健胃^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、大柴胡湯(だいさいことう)、四逆散(しぎゃくさん)など27処方に配合されています。生薬「トウヒ」は本種の成熟した果皮で、リモネン(精油)などの成分を含み、健胃^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤には配合されていません。主に芳香性苦味健胃薬として、種々の胃腸薬に配合されています。和名は、果実が代々年を越して樹上に残ることからつけられた説もあり、正月の飾りとして用いられます。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~ 語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



タバコ

Nicotiana tabacum L. ナス科(Solanacee)



熱帯アメリカ原産の多年草ですが、寒さに弱いため温帯では一年草として扱われます。高さ1.5～2mほどになり、夏に淡紅色で細長い漏斗形の花を多数咲かせます。葉に鎮痛^{※1}、解毒^{※1}作用があります。日本へたばこが伝わった年代には諸説がありますが、天文18年(1549)7月に鹿児島へ上陸したスペインの宣教師フランシスコ・ザビエルもその一人です。喫煙が習慣になるのは、煙の中に含まれるニコチンの働きによります。



※1 蕭培根主編，真柳誠翻訳編集。中国本草図録 巻2。大塚恭男，庄司順三，滝戸道夫，丁宗鐵監修。東京，中央公論社。1993，278p.



タマリンド

Tamarindus indica L. マメ科 (Fabaceae)

熱帯アフリカのサバンナ地帯に分布する常緑高木で、インド、東南アジアなどの乾燥した熱帯域で街路樹として多く植えられています。本種の果実を生薬「サンカク(酸角)」と称して、中医薬では、消化促進作用^{※1}のある薬木として知られています。東南アジアではタイ料理、フィリピン料理、ベトナム料理などのカレー、スープの酸味調味料として、インドでは一部の地域でチャツネという薬味に使われています。メキシコではドリンクとして、フィリピンでは葉を使ったタマリンド茶が有名です。その他、材は家具材として利用されるなど東南アジアでは利用価値の高い木です。



※1 蕭培根主編，真柳誠翻訳編集。中国本草図録 巻3。大塚恭男，庄司順三，滝戸道夫，丁宗鐵監修。東京，中央公論社。1993，258p.



チョウジノキ

Syzygium aromaticum (L.) Merr. et L.M.Perry フトモモ科 (Myrtaceae)



生薬名: チョウジ(丁子) 薬用部位: 蕾

南太平洋のモルッカ諸島(インドネシア領で、香料諸島と呼ばれています)に分布して、高さ10mほどになる熱帯性の常緑樹です。和名は蕾の乾燥品がクギのような形をしており、丁という字に似ていることに由来し、また英名のクローブもフランス語のクルー (clou 釘の意)が語源です。18世紀末、フランス人によって東アフリカ沿岸地帯に移植されたものが発展し、今日ではマダガスカル島などで世界市場の8割以上が生産されています。「チョウジ(丁子)」には、オイゲノールを主成分とする精油を含み、局所麻酔^{※1}、鎮痛^{※1}、抗ウイルス作用^{※1}を有し、「治打撲一方(ぢだぼくいっぽう)、柿蒂湯(していとう)など一般用漢方製剤294処方のうち4処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~ 語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



チョウセンゴミシ

Schisandra chinensis (Turcz.) Baill. マツブサ科 (Schisandraceae)



(局方)*Schisandra chinensis* Baillon

生薬名:ゴミシ(五味子) 薬用部位:果実

東アジアに広く分布するつる性の落葉木本ですが、暑さに弱いことから西日本の平地で栽培すると生育が緩慢になります。ゴミシ(五味子)の「五味」は5つの味の意味で、甘味・酸味・辛味・塩味・苦味のすべての味がすることから名前が付けられました。生薬「ゴミシ」は本種の果実で、シザンドリンなどの成分を含み、抗潰瘍^{※1}、鎮痛^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、小青竜湯(しょうせいりゅうとう)など15処方に配合されています。本種の果実を用いた「五味子茶」は、韓国の伝統茶で赤色を呈します。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~ 語源から覚える植物学・生薬学名集 ~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



チョウセンニンジン

Panax ginseng C. A. Mey. ウコギ科 (Araliaceae)



生薬名: ニンジン(人參)・コウジン(紅參) 薬用部位: 根

朝鮮半島、中国東北部に分布する多年草で、日本では長野県、福島県、島根県などで栽培されています。薬用部位の根は肥大して分岐し、5～6年栽培したものを用います。不老長寿の薬として古来より珍重され、将軍・徳川吉宗の時代には栽培が奨励されたという歴史があります。生薬「ニンジン」は本種の細根を除いた根又はこれを軽く湯通ししたもの、生薬「コウジン」は本種の根を蒸したもので、いずれもギンセノシド(サポニン)などを含み、補精^{※1}、強壮^{※1}、鎮静^{※1}、抗糖尿病^{※1}などの作用があります。漢方薬に配合する場合は、通常「ニンジン」を用い、一般用漢方製剤294処方のうち、人參湯(にんじんとう)、補中益気湯(ほちゅうえっきとう)など73処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



チョウマメ

Clitoria ternatea L. マメ科 (Fabaceae)



インドから東南アジアにかけて分布するつる性の多年生草本で、熱帯地域に広く野生化しています。和名の「チョウマメ(蝶豆)」は、青色の大きな花が蝶に似ていることにちなんで名付けられ、英名でも「Butterfly pea」と呼ばれています。本種の根にはサポニン、フラボノイド、アルカロイドが含まれ、中国では「蝶豆(チョウトウ)」と称して、峻下作用^{※1}が認められます。国内へは1848年(嘉永年間)に導入され、葉は飼料として、花は青色色素デルフィニディンが含まれるのでリトマス試験液の代用とされたこともありました。



※1 蕭培根主編，真柳誠翻訳編集。中国本草図録 巻2。大塚恭男，庄司順三，滝戸道夫，丁宗鐵監修。東京，中央公論社。1993，278p.



チョロギ

Stachys sieboldii Miq. シソ科 (Lamiaceae)



中国南部に分布する多年草で、日本には17世紀に朝鮮半島から渡来しました。5～6月にピンク色の花を咲かせ高さは50～60cmになります。秋から初冬になると地下茎の先が肥大して塊茎と呼ばれる巻貝のような球根を形成します。塊茎および全草を乾燥させたものが生薬「ソウセキサン」で、スタキドリン、コリン、スタキオースなどを含み滋養^{※1}、強壮^{※1}作用があります。チョロギという和名の由来は、中国語の「朝露葱」が日本語読みされたというものや、韓国語でミミズを意味する「チョロンイ」が転じたとされるものなど諸説あります。これに「長老木」や「長老喜」、「千代呂木」などの字が当てられたことから、おせち料理によく用いられます。



※1 相賀徹夫, 中薬大辞典 第三巻, 東京, 株式会社小学館, 1985, 2109p.



テンダイウヤク

Lindera aggregata (Sims) Kosterm. クスノキ科 (Lauraceae)



(局方) *Lindera strychnifolia* F.Vill.

生薬名:ウヤク(烏薬) 薬用部位:根

享保年間(1716～35年)に中国から伝わったとされる常緑低木ですが、今では、九州、近畿などの諸府県で野生化が見られます。雌雄異株で、3～4月に淡黄色の小さい花を咲かせます。「烏薬」の名前の由来は、本種の根がカラスの頭に似ていること、あるいは果実がカラスのように黒いことからと言われています。また「天台烏薬」の「天台」とは、中国南部の浙江省の天台地方で良質のものが採れることに由来します。ボルネオール(モノテルペン)などの成分を含み、整腸^{※1}作用があり、一般用漢方製剤294処方のうち、烏薬順気散(うやくじゅんきさん)、烏苓通気散(うれいつうきさん)など5処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



テンチャ

Rubus chingii Hu var. *suavissimus* (S.K.Lee) L.T.Lu バラ科(Rosaceae)



中国南部の山岳地帯や広西壮族自治区などに自生する低木です。広義にはキイチゴの仲間で、5～6月頃に直径2cmほどの一重の白花を咲かせます。現地民が葉をお茶に仕立てたものを「甜茶(テンチャ :中国における木の葉から作られたお茶の総称)」のひとつとして飲用しています。薬効としては鎮咳^{※1}、去痰^{※1}作用などがあります。



※1 蕭培根主編，真柳誠翻訳編集。中国本草図録 巻1。大塚恭男，庄司順三，滝戸道夫，丁宗鐵監修。東京，中央公論社。1992，278p.



トウガラシ

Capsicum annuum L. ナス科 (Solanaceae)



生薬名: トウガラシ(蕃椒) 薬用部位: 果実

中南米に分布する多年草で、わが国には安土桃山時代以降に渡来し、江戸時代中期から広く栽培されるようになりました。今では、日本人の食生活に欠かせない香辛料の一つとなっています。生薬「トウガラシ」は本種の果実で、カプサイシンなどの成分を含み、皮膚刺激^{※1}、健胃^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤には配合されていません。主に辛味性健胃薬や筋肉痛、しもやけなどの局所刺激薬として利用されています。辛味成分のカプサイシノイドは、隔壁の表皮細胞で合成され、細胞外に分泌し細胞壁とクチクラとの間に蓄積しています^{※2}。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.

※2 杉山立志 ほか. カプサイシン含有率と隔壁表面積計測によるトウガラシ果実におけるカプサイシン生合成の評価. *Plant Morphology*. 2006, 18(1), 75-82.



トウガン

Benincasa pruriens (Parkins.) W.J.de Wilde et Duyfjes f. *hispida* (Thunb.) W.J.de Wilde et Duyfjes ウリ科 (Cucurbitaceae)



(局方)*Benincasa cerifera* Savi

生薬名: トウガシ(冬瓜子) 薬用部位: 種子

トウガン属はトウガン一種からなる単型属で、熱帯アジアに分布するつる性の一年草です。晩夏から初秋が旬の野菜ですが、農家では納屋などで貯蔵することで冬の保存食としていたことから「冬瓜」の和名がつけました。日本への渡来は「本草和名」(918年)に登場した10世紀頃とされ、以来、夏野菜として親しまれています。生薬「トウガシ」は本種の種子で、トリゴネリン(アルカロイド)などの成分を含み、抗浮腫^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、大黄牡丹皮湯(だいおうぼたんぴとう)の1処方に配合されています。種子のほか、茎、葉、果皮も民間薬として用いられ、捨てる部分がほとんどありません。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~ 語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



トウキ

Angelica acutiloba (Siebold et Zucc.) Kitag. セリ科 (Apiaceae)



(局方)*Angelica acutiloba* Kitagawa セリ科 (Umbelliferae)

生薬名: トウキ(当帰) 薬用部位: 根

日本の本州中部地方以北に産する多年草で、草丈40～80cmになります。6～7月にセリ科植物に多く見られる複散形花序の花を咲かせます。生薬「トウキ」は本種の根を通例、湯通ししてから乾燥させたもので、リグスチリド(精油)などを含み、強壮^{※1}、鎮静^{※1}、鎮痛^{※1}、補血^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、当帰芍薬散(とうきしゃくやくさん)、紫雲膏(しうんこう)など78処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



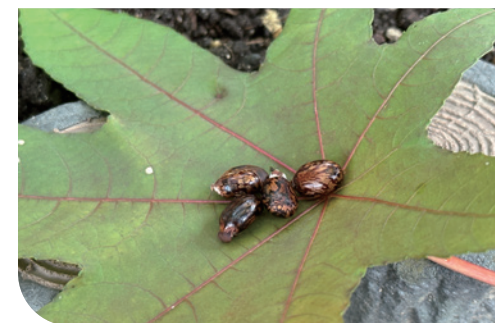
トウゴマ

Ricinus communis L. トウダイグサ科 (Euphorbiaceae)



生薬名:ヒマシユ(ヒマシ油) 薬用部位:種子

北アフリカ原産の多年草ですが、日本では越冬できないので一年草として栽培されています。生薬「ヒマシユ」は本種の種子を圧搾して得た脂肪油で、瀉下^{※1}などの作用があります。古代エジプトでは最古の医学文献に記載があり、病気に罹るのは悪魔が体内に入り込んだためと信じられ、それを体外に排除する目的で、激しく作用する「ヒマシユ」が下剤として利用されていたようです。今ではカスターオイルとしてマッサージ、スキンケア、頭皮ケアなどの目的で多用されています。



※1 原島広至, 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~ 語源から覚える植物学・生薬学名単語集~, 伊藤美千穂, 北山隆監修, 東京, 丸善雄松堂株式会社, 2017, 361p.



トウシキミ

Illicium verum Hook.f. マツブサ科 (Schisandraceae)



生薬名: ダイウイキョウ(大茴香)

薬用部位: 果実

北ベトナムから中国広西省の国境地域に分布する常緑高木で、広東、福建省などでも栽培されています。別名「ダイウイキョウ(大茴香)」とも呼ばれ、健胃薬^{※1}として用いられます。大部分は中国料理に消費されます。最近では、本種に含まれるシキミ酸がインフルエンザ治療薬「オセルタミビルリン酸塩」の製造原料(リード化合物)となったことで注目を集めました。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ドクゼリモドキ

Ammi majus L. セリ科 (Apiaceae)



地中海沿岸から中東にかけて分布する二年草です。果実には成分としてクロモン誘導体のケルリン、ビスナギン、ケロール配糖体などを含まれます。消化器症状改善^{※1}、利尿^{※1}作用があり、喘息や気管支炎、腎結石に用いられます。春～初夏に咲かせる花序(花の集合体)がニンジンの花序と似ているため、英語では「Spanish carrot(スペインのニンジン)」と呼ばれることもあります。



※1 アンドリュー・シェヴァリエ, 世界薬用植物百科事典 日本の薬用植物のすべて, 難波恒雄監訳, 東京, 株式会社誠文堂新光社, 2000, 334p.



ドクダミ

Houttuynia cordata Thunb. ドクダミ科 (Saururaceae)



生薬名: ジュウヤク(十薬) 薬用部位: 地上部

東アジアに広く分布し、日本でも本州から沖縄までのやや湿った土地に生える多年草です。草丈20～50cmになり、全草には特有の臭気があります。生薬「ジュウヤク」は本種の花期の地上部で、デカノイルアセトアルデヒド(精油)などの成分を含み、利尿^{※1}、抗菌^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、五物解毒散(ごもつげどくさん)、栝楼薤白湯(かろうがいはいくとう)の2処方に配合されています。また、十の効能を持つ重要な薬といわれ、民間薬としても広く利用されています。干した葉を煎じた「ドクダミ茶」は健康茶として飲まれています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



トコン

Carapichea ipecacuanha (Brot.) L.Andersson



(局方)*Cephaelis ipecacuanha* A.Rich.

生薬名:トコン(吐根) 薬用部位:根および根茎

ブラジルの熱帯多雨林に分布し、高さ10～16cm程の常緑小低木となり地中を這って数珠上の太い側根を張ります。本種又は、*C. acuminata* Kaistenの根および根茎を天日乾燥したものが生薬「トコン(吐根)」で、アルカロイドであるエメチン及びセファエリンを含みます。タバコや医薬品の誤飲に対して、飲んだものを吐かせるように嘔吐を誘導する催吐^{※1}作用がありトコンシロップの原料となります。ただし作用性が強く劇薬に指定されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



トチバニンジン

Panax japonicus (T.Nees) C.A.Mey. var. *japonicus* ウコギ科 (Araliaceae)



(局方) *Panax japonicus* C.A.Mey.

生薬名: チクセツニンジン(竹節人參)

薬用部位: 根茎

北海道、本州、四国、九州に分布する多年草です。樹林下に生育し、1年に1葉を展開した後、根茎が1節ずつ増えていくことから、掘上げた株の年齢推定の参考にされます。また、地上部の形態はチョウセンニンジン(*P. ginseng* C. A. Meyer)とよく似ています。トチバニンジン(トチノキ)の名は、葉の形がトチノキ(*Aesculus turbinata* Blume)の葉に似ていることから、また別名のチクセツニンジン(竹節人參)は、根茎がタケの地下茎のように節があることから名付けられました。生薬「チクセツニンジン」は、根茎を通例、湯通ししたもので、チクセツサポニン(サポニン)を含み、健胃^{※1}、去痰^{※1}、強壮^{※1}などの作用を有します。一般用漢方製剤294処方のうち柴葛湯加川芎辛夷(さいかつとうかせんきゅうしんい)など、2処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



トロロアオイ

Abelmoschus manihot (L.) Medik. アオイ科 (Malvaceae)

中国原産で、日本には室町時代に渡来し、現在では我が国各地で栽培されている一年草です。草丈1～2mになり、7～9月に直径10～15cmのオクラ(*A. esculentus* Moench)に似た花を咲かせます。花は食用になり、「ハナオクラ」の別名があります。薬効としては抗腫脹^{※1}作用などがあります。また、根の粘液質は和紙をつくる際の「ねり」として極めて重要で、繊維を水中で均一に分散させるために利用されます。



※1 相賀徹夫. 中薬大辞典 第一巻. 東京, 株式会社小学館. 1985, 702p.